

●小宮祭の歴史的風致

□活動が行われる歴史的建造物と周辺市街地

昔懐かしい景観と日々の生活感と
マッチした小宮祭にみる歴史的風致
 七年に一度の御柱の年では、五月の諏訪大社下社里曳き祭りが終わると、各地区の小宮祭が行われます。小宮祭は、町指定文化財熊野神社本殿などのムラの鎮守等で行われる御柱祭で、戦後盛んになり町内のほとんどの集落で開催されます。お祭りの対象となる社は、諏訪明神に係る御祭神に限らず、地域の氏神様であったり、道祖神であったりお祭りの対象を限定しない様子は、人々の御柱に対する情熱的な意気込みが感じられます。
 なかには、諏訪大社に曳き建てられた御柱に見劣りしない太い柱を曳き建てる小宮もあり、地域集落が主体となるほかにも、学校や会社組織が主体となっておのおの御柱の行事が催され、御柱の年には一年中町内に木遣り唄が響き、道中長持ち、御神輿、笠踊りなどの神賑わいといわれる出し物が集落内に繰り出します。また、小宮祭は三、十五軒の同族の集まりであるマキにおいても町内各所で開催され、諏訪大社の祭事にならって、子どもたちの曳行する小さな御柱が、親戚の年配者に先達されながらマキの小さな祠（ほこら）に曳き建てられる風景も見られます。
 御柱祭小宮祭が行われる鎮守やマキの祠の景観は暮らしの風景の一部であり、地域の人々の生活を象徴しており、小宮祭の賑わいが一体となって歴史的風致を形成しています。



●下社遷座祭の歴史的風致

□活動が行われる歴史的建造物と周辺市街地



「早春と盛夏」の季節の節目にみる遷座祭の歴史的風致
 諏訪大社下社は、春宮と秋宮の二社があり、半年ごとに祭神の御霊代（みたましろ）を秋宮から春宮へ、春宮から秋宮へと遷座する古来の祭祀が伝わっています。
 遷座の行列は、春には秋宮の弊拝殿・神楽殿、町指定文化財である下馬橋を通り、春宮の神楽殿、弊拝殿から宝殿へ、夏には同じ行程を戻って秋宮へ向かいます。この行列の往復路が古くから「三角八丁」と呼ばれ、古くから人々が生活を営む区域であり、遷座祭やお舟祭りの際には、通り沿いの家々の門口に諏訪大社下社御神紋の御旗や提灯が掲げられ御神霊の行列を迎えます。
 厳かな雰囲気のある行列が進行する様子とは活気あふれる柴舟が曳行される祭礼の風情は、早春と盛夏の季節の節目となつて、私たちの日々の暮らしに織り込まれ、お祭りを迎える御旗や提灯が掲げられた沿道の趣と融和して、諏訪大社下社遷座祭の歴史的風致を形成しています。

●道中長持ちの歴史的風致

□歴史及び伝統を反映した人々の活動



「街道の歴史と祭の活気」が融合した道中長持ちの歴史的風致
 長持ちは本来衣類や調度品などを入れて運搬したり、保存したりする箱でしたが、神社の上棟式などに餅や供物を入れて運搬したのを神事長持ち、嫁入りに使われたのが婚礼長持ち、大名が参勤交代の道中で運搬道具として使ったのが道中長持ちといわれます。現在は団体などの名札に大きな御幣、おかめの面など表面に飾り立てた長持ちに長さ八、十メートルのヒノキの棹を通して担ぎます。衣装を凝らして道化の扮装をしたりして目立つよう工夫しています。町内には道中長持ちの伝統を伝える団体が二十三あり、御柱祭・お舟祭り・各地区の春秋の祭り等で、その所作と長持ち唄を披露する「振り込み」が行われます。調子が良く、威勢が良い長持ちの振り込みは、粋な賑わいを昼夜にわたって町中にも出し出します。江戸五街道の歴史を伝える中山道沿線や下諏訪宿の町並みや農村集落の趣を残す景観を背景に、伝統と活気あふれる長持ち道中が威勢よく振り込まれる場面は、祭りに向けた期待と高揚感、そして参加の喜びが人々の生活の場に共有された下諏訪町独自の歴史的風致を形成しています。



下諏訪町の歴史的風致に関する取り組み

文化財をはじめとした歴史的建造物の保存整備
 文化財などの歴史的建造物の所有者も少子高齢化の進行による後継者不足で建造物の修理や継続的な維持管理に支障が生じてきています。
歴史的街並み景観の保全及び良好な景観形成
 歴史的な街並みが残る旧中心市街地においては、高齢者世帯や空き家が増加し、街道沿いと下諏訪宿の歴史的街並みの維持が困難な状況になっており、現存する歴史的建造物の保存と街並み景観の保全などが課題です。
祭礼などの伝統文化の伝承
 千二百年以上の歴史を持つ県指定無形民俗文化財御柱祭の活気あふれる伝統文化は人から人へ体験的に伝承することが大切なことですが、祭礼の主体となつている地域コミュニティにおいても、後継者と資金の不足により

下諏訪町の歴史的風致に関する取り組み

文化財の保存と公開
 町は、旧中山道の沿線において、宿場町の風情の残る二棟の建物の復元と公開を行っています。「歴史民俗資料館」は、明治初期に建てられた建造物で、江戸時代の宿場の町屋の特徴を残し、下諏訪宿の民俗を伝える品々を展示しています。「今井邦子文学館」は、歌人今井邦子が暮らした往時の家屋を復元したもので、今井邦子の足跡を展示公開しています。引き続き町では、江戸末期建築の「伏見屋邸」の復元修理を行い、公開と民間協働による活用を図ります。
下諏訪町観光振興条例
 歴史的街並み復元に向けて、町観光振興条例によりファサードを町屋建築様式等の建築意匠に復元する事業に対して助成を行っています。



●騎馬行列(町無形文化財)の歴史的風致

□歴史及び伝統を反映した人々の活動



「江戸の風情を伝える衣装や所作」と建造物が一体となった歴史的風致
 騎馬行列（「おきば」と呼ばれる）は、御柱祭の出し物の一つで將軍や貴人、大名の護衛あるいは祭礼警護の武者行列から起こり、それが形式化して「御柱迎え」の奉納騎馬の形となり、それが現在の祭礼における一種の賑物（にぎわいもの）になりました。
 第一区の騎馬と第三区の騎馬は、昭和四十七年十月に町無形文化財に指定されています。第一区の騎馬は出陣騎馬と呼ばれ、威風堂々出陣していく様子を「立浪型」の上下の動きで力強く士気を鼓舞し、勇ましい掛け声で表現します。
 第三区の騎馬は凱旋騎馬と呼ばれ、第一区騎馬に比べて派手な衣装で、戦いに勝った喜びと遠地から里に戻った喜びを横波の動きで表現します。行列が入って行けないような小路でも、曲傘と草履取りのペアがまんべんなく回って披露します。騎馬行列の本隊が騎馬の殿様を中心に中山道の街並みを進む様子がかつての武者行列を想像させます。
 特に国指定重要文化財春宮と秋宮の門前で披露される振り込みは、江戸の風情を伝える衣装や所作とこれら建造物が一体となつて、町独自の歴史的風致を象徴しています。



下諏訪町街かど博物館事業補助金交付要綱

町内において、町を象徴する産業、文化、歴史に関連した産物、機械道具、生活用品、文献及び資料等を展示し、一般公開する施設について展示施設整備に要する費用の一部を助成しています。
（住民の取り組み）
「ぶらりしもすわ三角八丁！」
 町内の各種団体、企業、個人が連携して開催されるイベントで平成十六年から始まりました。「三角八丁」とは中山道に沿って秋宮と春宮を結ぶ三角形の古い呼び名で、御柱とお舟の曳行コースでもあります。
「歩きたいしもすわ九十九分のまちあるき」
 三角八丁のエリアを中心に、町観光協会が散策コースを設定し、歴史的建造物などを巡り歩いて楽しんでもらいます。
下諏訪建築メンテナンス・ワークショップ
 歴史的風致の維持向上のため、築三十年の「伏見屋邸」の有効活用を民間協働で推進しています。

